

十字架の再発見②—イエスの死のキリスト教的理由と意味

原田元道

罰する神：神の正義

- ・ 罪とは何か？
 - 人類最初の「罪」はアダムとエバが神の言い付けに背いたこと
 - 「主なる神は人に命じて言われた。『園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。』」(創世記 2:16-17)
 - 「的外れ(missing the mark)」= 神が望むことからズレていること、「神以外のものを神以上に重要視すること」(Millard Erickson)
- ・ どんな人が罪を犯す？
 - 罪を犯さない人はいない
 - 「罪を犯さない者は一人もいません」(列王記上 8:46)
 - 「主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら／主よ、誰が耐ええましょう。しかし、赦しはあなたのもとにあり／人はあなたを恐れ敬うのです。」(詩編 130:3-4)
 - 「律法全体を守ったとしても、一つの点でおちどがあるなら、すべての点について有罪となるからです。」(ヤコブ 2:10)
- ・ 罪の罰は？
 - 死
 - 「罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。」(ローマ 6:23)
 - 「神はノアに言われた。『すべて肉なるものを終わらせる時がわたしの前に来ている。彼らのゆえに不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす。』」(創世記 6:13)

神は人が神に従わないこと(罪)を非常に重く受け止めている

赦す神：神の愛

- ・ 無条件で赦される？
 - 罪の赦しには償いが必要(謝っても済まないときがある)
 - 「もし、その他の損傷があるならば、命には命、目には目、歯には歯、…打ち傷には打ち傷をもって償わなければならない」(出エジプト 21:23-25)は被害者に復讐・報復を許可するのではなく、加害者が果たすべき賠償の基準を示したもの
- ・ 自らの命(死)で償うしかない？
 - 無傷の動物の命(特に血)をいけにえとして捧げる
 - 「生き物の命は血の中にあるからである。わたしが血をあなたたちに与えたのは、祭壇の上であなたたちの命の贖いの儀式をするためである。血はその中の命によって贖いをするのである。」(レビ記 17:11)
 - 「こうして、ほとんどすべてのものが、律法に従って血で清められており、血を流すことなしには罪の赦しはありえないのです。」(ヘブライ 9:22)
- ・ いけにえさえ捧げれば赦される？
 - 神は人が心から神に立ち帰り(悔い改め)神に従う事を望む
 - 「主は言われる。『今こそ、心からわたしに立ち帰れ／断食し、泣き悲しんで。衣を裂くのではなく／お前たちの心を引き裂け。』あなたたちの神、主に立ち帰れ。主は恵みに満ち、憐れみ深く／忍耐強く、慈しみに富み／くだした災いを悔いられるからだ。あるいは、主が思い直され／その後祝福を残し／あなたたちの神、主にささげる穀物とぶどう酒を／残してくださるかもしれない。」(ヨエル 2:12-14)

ただ神の愛と恵みと憐れみによって赦される

ブログ(<https://forthejp.com>)もご覧ください

救う神

- ・ 何から「救われる」？
→罪の報酬である「死」＝肉体的な死も含んだ神との関係の断絶
「さて、あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。わたしたちも皆、こういう者たちの中において、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。」(エフェソ 2:1-3)
- ・ いけにえでは救えない？
→場所(神殿)や方法(儀式、祭司制など)による制限あり。際限がない、罪を取り除けない(ヘブライ 10:1-4)
⇒神の独り子イエスが、大祭司として、ただ一度だけ御自分を無傷の(聖であり、罪なく、汚れのない)いけにえとして捧げ、永遠の贖いを成し遂げた(ヘブライ 7:26-28)
「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人々の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」(マルコ 10:45)
「しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。」(マルコ 15:37-38)
 - ☆ イエスは十字架以外では死ねなかった？
→人間の罪の残酷さ。「苦難のしもべ」(イザヤ 53 章)として苦しみを通過する神(の独り子)。キリストに従う者の模範(1ペトロ 2:21)。律法の呪いからの贖い(ガラテヤ 3:13; 申命記 21:23)。イエスの預言の成就(ヨハネ 3:14; 12:32)
 - ☆ 人類の永遠の贖いとしてイエス一人で十分？
→イエスは一人の人ではなく神が人の姿をとって地上に来られたお方。創造主なる神(御子なる神)御自身の命を懸けて被造物なる人類の永遠の贖いを成し遂げた。
- ・ いけにえ(神の独り子)さえ捧げれば救われる？
→神は人が心から神に立ち帰り(悔い改め)イエスを信じ従うことを望む
「すると、ペトロは彼らに言った。『悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。』」(使徒 2:38)
「しかし、あなたに言うべきことがある。あなたは初めのころの愛から離れてしまった。だから、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて初めのころの行いに立ち戻れ。もし悔い改めなければ、わたしはあなたのところへ行って、あなたの燭台をその場所から取りのけてしまおう。」(黙示録 2:4-5)

十字架の再発見

- ・ 神の正義の象徴：罪を罰する神
- ・ 神の愛の象徴：罪を赦す神
- ・ 神の救いの象徴：
義と愛の神が人類を死から救い出し永遠の命を与え、共に歩むための唯一の手段

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」(ヨハネ 3:16-17)